

には、リンクがあります。は、WAMNETの事業者情報にリンクします。外部評価の結果

グループホーム
事業所名 新賀痴呆対応型共同生活介護事業所

日付 平成16年8月17日
 特定非営利活動法人

評価機関名 高齢者と痴呆の人のケアを大切に
 LIFE SUPPORT推進グループ
 評価調査員 在宅介護経験8年
 在宅介護経験11年

自主評価結果を見る

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります！)

講評

全体を通して(特に良いと思われる点など)

訪問調査は七夕の日。利用者の方々が朝の散歩から帰ってきて、アウトドア・ティータイム。そこには沢山の短冊が飾られた笹竹がある。「今の願いは健康だけよ」「ここにおれたら安心だわ」「一番の楽しみは美味しいご飯、等々短冊を見せながら日頃の生活ぶりを話していた。このホームは「利用者一人ひとりが、その人らしく最後までゆくり暮らせるケア」が売り物。教育訓練を受けた正職員のみで編成され、利用者に残存している能力を引き出して「何をしたいのか」「どんなことを思っているのか」等的確に把握して、ゆったりとした時間の中でケアをている。「あまの先生」「お話の先生」「笑わせ上手」「洗濯物たたみ名人」「草取り好き」等利用者も生活の中で得意な分担をしている。

同じようにつくられた生活の場が上下階にあり、利用者にとっては4～5名のユニットになっており、より少人数の家らしさを感じるが、職員は昼間3人で階段を上下しながら大変だろうと心配したが、そこはチームワークよく、ゆとりのある行動で、利用者を満足させる生活を提供していた。各部屋にトイレ、洗面があり、窓も大きく居住性も優れており、個性のある生活の場をつくっている。

特に改善の余地があると思われる点 次のような提案をした

痴呆ケアの専門グループで日常のケアをすることは最良であろうが、一方で静かに淡々とした生活を感じる。「普通の生活をする」ということは、一日の中でもっとリズムミカルな時の流れがあった方がグループホームらしいかなと思う。色々な人との交流があって、利用者各々が部屋で、リビングで又外のベランダで、様々なことをしているという光景も見たいものである。利用者のもとに家族やボランティアのおじさん、おばさん、子供連れの元気なおばさんと出入り出来る環境づくりが必要と思う。ケアする方も今のような職員だけでなく、少し陽気でお手伝いさんのような人も混じって利用者と一緒に生活しているという環境の方が活気付き、私達は生活したいなあと思うかも知れない。色々な人との交流は、目的や方法を地元にし、ボランティアとしてもっと入って貰う働きかけをして欲しい。例えばグループホームの周囲の庭を生き生きとした菜園や花畑にするために、ボランティアの人に日常の手入れをお願いする等が考えられる。

I 運営理念

番号	項目	できてい	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目 グループホームとしてめざしているものは何か			
痴呆介護のあり方、グループホームとして向かっていくところは共通。管理者からも職員からも「その人らしく最期まで、一人ひとりの思いに出来るだけ応えていきたい」という姿勢が皆んなの行動からも、その場の雰囲気からも漂ってくる。傍目からかなり厳しい職員たちの日常の姿にもかかわらず、痴呆ケアの専門家としての意識が高く不満や弱点が聞かれないのは、目を見張るばかりだ。「人を人として尊重するという事が、どういことなのか」本当に理解することは厳しいと思うが、「さすが」と感銘を受けた。			

生活空間づくり

番号	項目	できてい	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目 入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か			
玄関やリビング、そして各部屋の大きな窓も開放的で、「施設に収容されている」とか、「拘束されている」といった違和感が全く感じられない。「普通の人の普通の暮らし」がここにあるのは、このホームの空間設計のすばらしさと同時に職員の行き届いた暖かいケアによるものだろう。			

ケアサービス

番号	項目	できてい	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人で行えることへの配慮		
15	入居者一人ひとりにあわせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できてい	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にされた整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物物の支援		
23	痴呆の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目 一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か			
相手に「何かしてあげる」ことは比較的簡単なことだ。しかし「何をしたいか」「何をしたいか」「得意なことを、この人にしてあげたい」等、利用者が思っていることを察知してあげることが大変難しい。特に痴呆の人のように、うまく自分の意志を表現出来ない人のケアには、その人の微弱な信号を受け止められるセンサーの持ち主が必要である。このホームの職員は、その能力をさらに発揮している。大変なことなのに、もう一つは、微弱な信号をどんどん発信出来るように、アクションをもっと投げかけることも必要だと思う。			

IV 運営体制

番号	項目	できてい	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
33	家族への日常の様子に関する情報提供		
34	地域との連携と交流促進		
35	ホーム機能の地域への還元		
記述項目 サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。			
痴呆ケアの質の向上については、あらゆる面で先駆的立場で活動していることは誰も認めるところであるが、グループホームとして考慮すべきことは少し別の観点があると思う。自分の家で暮らしてきた生活の延長の暮らしを考え、それぞれの人らしさを尊重する暮らしをしていくためには、家族や地元の人やボランティアとの交流をもっとして頂きたい。この様な立地条件下では、ホーム側から家族や地域の人を利用者の生活の一助とするために、もっと積極的に招き入れが必要と思う。そして専門家の間だけでなく、地域の人に痴呆ケアの啓蒙を今以上に積極的に進めていってグループホームとの一体感を深めて欲しい。			